



公益社団法人 五所川原青年会議所

2016年度 理事長 今 一 憲

2016年度 LOM スローガン

SUPPORT

～積極的に 明日へ向かって～

公益社団法人 五所川原青年会議所 2016年度 理事長所信

公益社団法人 五所川原青年会議所
理事長 今 一 憲

【はじめに】

広い津軽平野と岩木川そして岩木山。燃え尽きるかの如く過ぎ去る短い夏。そして厳しく寒い冬。それら全てをとっても、私はこの地域が本当によい地域だと感じます。都会と違う、心地良い「故郷」。その愛おしい「故郷」も、人口減少・少子高齢化・経済の低迷等、一昔前まで感じる事が出来た活気が、希薄化している印象を見受ける事が多くなりました。

20～40年前に生まれ、この地で育った青年50名程が、今日の五所川原青年会議所のメンバーとして、日々地域の為に活動しております。我々が幼かった頃は、商店街は賑わい、学校にはたくさん生徒がおり、近所付合い等のコミュニケーションも活発で、人々も活気に溢れておりました。

10年後、20年後、このまま時計の針が進んだとき、愛する「故郷」はどのようなになるのか。我々は、岐路に立たされているのです。

【より信頼ある地域団体】

五所川原青年会議所が、国の制度改革による公益法人格へ移行してから早3年。徐々に新制度へ順応している一方で、法の解釈等の理解が難しく、まだまだ翻弄されながら会を運営しているといった課題があるのも実状です。我々の運動をしっかりと展開していく為にも、まずは組織の運営基盤を、しっかりと固めていく必要がございます。

まず、財務・事務を中心とした執行部が、公正で、明瞭かつ効率的な組織運営を、確立しそれを確実に遂行していけるよう率先し、当会全体を導いていかなければなりません。また、総務委員会が中心となり、基本的な担いである各種総会の開催、定例会の円滑な運営、広く・きめ細やかな情報発信を実施していかなければなりません。

地域の皆様からの信頼をより堅実なものとし、我々の運動が最善を尽くせる環境をしっかりと整備して参ります。

【故郷の宝】

次代を担う子供達は、地域にとって大きな可能性を秘めた、言わば「宝物」であります。しかし、大人への階段を歩んでいる彼らは、精神的・肉体的にも発展途上の段階であり、今後の長い道のりにおいて、様々な修練が待ち受けていることでしょう。地域の明るい未来の実現を目指す団体である我々も、それを決して見過ごす訳にはいきません。

今年は、青少年達へこの地域の魅力を直接体感して頂き、「成人しても、この地に安住したい」という精神を育てて頂きます。また、日々の学校生活では決して学ぶ事が出来ない、JCならではの貴重な体験を通じて、人としても大人への大きな第一歩を踏み出して頂ける機会を設けます。

「故郷」を愛し大きく成長した「宝物」が、この地を照らし大きな輝きを放ちながら、地域を牽引してくれる事と確信致します。

【先人からの贈り物】

田植えが落ち着いた6月に毎年開催している「奥津軽虫と火まつり」。今年で44回を数えるこのまつりも地域の大事な伝統行事の一つであります。近年は、若者や参加団体の減少等、様々な問題を抱え、時にその運行形態を変えつつも、市民の皆様には地域の幸せを願う神事のお祭りとして認知を頂き、観衆も徐々にではありますが、年々増えております。

今年も、この「奥津軽虫と火まつり」を開催し、古くから継承されてきたまつりの燈火を未来へしっかりと引き継いで参ります。また、このまつりを通じて、地域の皆様へまつりの意義を伝承し共感を得て頂き、今まで観衆だった方々が「このまつりに出たい。」という気持ちを育み、そして、その方々が実際に参画頂ける環境を整備して参ります。

この「奥津軽虫と火まつり」を地域の皆様と作り上げ、その意義の伝承が成されていく事で、まつり本来の願いである地域の「弥栄」へ向け努めて参ります。

【市民協働】

我々が日々運動するに当たって、実際そこに住み暮らす者の行動や発言ほど、周囲の人への深い共感、幅広い波及効果を得ることが容易なものではありません。また、その行動は一個人、一団体、一行政と各々が展開するより、三者が同じベクトルに向け、真剣に突き進める事で、時として爆発的な運動に発展する可能性を秘めております。

2012年から五所川原市と共同で開催している市民討議会は、世代を超えた市民の生の声を、直接市政へ届ける事ができる大事な場であります。また、討議会開催を基に始動した、市民とJCにて構成する地域団体「らぶ・ごしょがわら実行委員会」も今年で4年目を向かえます。

今年も「市民討議会」の開催、「らぶ・ごしょがわら運動」の推進を図り、市民と協働するまちづくり運動を展開し、五所川原発展に寄与して参ります。

【気概ある青年団体】

我々が運動を展開する際、会員数が30より50、50より100人と、運動の大きさと会員数は深い関係にあります。そうした中、当会においても、いわゆる団塊ジュニア世代の卒業が近年顕著な傾向を辿り、会員拡大は急務であります。また、会員数が増えたとしても、会員相互の協調性や、個々の資質が疎かでは、拡大以前の問題であります。

その為にもまず今年、会員拡大に関しましては、全会員が一丸となって全力で取組んで参ります。また、新入会員を含めた会員相互の絆を深める各種交流事業の開催はもちろん、青年としての英知の向上を図ることができる機会を設け、当会全体の活性化と会員個々の資質向上に努めて参ります。

限られた時期に活動する青年会議所で、巡り合わせた一生涯の仲間と共に、地域を背負って立つという気概を持ち切磋琢磨、精進して参ります。

【おもてなしの精神】

今年、青森ブロック協議会主催の青森ブロック大会が、当会主管で開催されます。年1回、県内8会員会議所の会員が集結し、交流や新たな気づきを得ることができる重要な大会であり、我々としまでも五所川原で開催されることは大変名誉な事であり、また五所川原の魅力を存分に発信できる絶好の機会でもございます。

当会としましても、会員一同「おもてなしの精神」で、各地会員会議所の皆様をお迎えし、大会成功の一助となるよう努めて参ります。2012年度、主管させて頂きました「東北青年フォーラム in 奥津軽五所川原」の経験を生かし、会員個々はもちろん、会全体の更なるスキルアップを図って参ります。我々が一丸となって誠心誠意おもてなしをすることにより、県内各地の会員の皆様が「五所川原大会に来て良かった。」と感じて頂けるよう、全力で取り組んで参ります。

【結びに】

私は青年会議所に入会してから、様々な事業に携わる中で、関係諸団体の皆様、行政、市民そして先輩諸兄、仲間である会員とあらゆる方々から、本当にたくさんの御指導・御協力を頂いて参りました。その皆様の熱い「support」があったからこそ、私自身活動して行くことが出来ましたし、今日の私があるのも皆様のお蔭でもございます。

今年、『sUPport』というスローガンを掲げた理由も、そうした観点からであります。「support」される側、する側。立場は違ってもこの行動自体、人道的に非常に美しく温かいものです。何事を為すにも、一人では限界があります。手を取り合い、時にぶつかり合いながら取り組んでいく事で、素晴らしい成果が伴うものと確信しております。

今年も、我々JCが積極的に全力で『sUPport』し、10年、20年、100年先も、夢で溢れた「故郷」であり続けるよう、未来へしっかり襷をつなげて参ります。

基 本 計 画

【 基 本 理 念 】

襷をつなげ！地域と共に
夢溢れる「故郷」の未来に向かって

【 基 本 方 針 】

- 1、信頼ある組織づくり・運営の確立
- 2、「郷土愛」育む青少年育成事業の開催
- 3、地域と共に勇壮な「奥津軽虫と火まつり」開催
- 4、市民協働のまちづくり運動の推進
- 5、全会員による拡大と会員個々の資質向上
- 6、第46回青森ブロック大会の主管

【 LOM スローガン 】

SUPPORT

～積極的に 明日へ向かって～

公益社団法人 五所川原青年会議所 2016年度 理事及び監事

理 事 長	今 一 憲
直 前 理 事 長	佐 藤 昭 義
顧 問	平 川 新 介
専 務 理 事	佐々木 邦 和
副 理 事 長	宮 崎 敬 也
副 理 事 長	高 橋 美 奈
副 理 事 長	榎 崎 誉 人
副 理 事 長	上 見 一 嘉
ブロック大会特別室長	中 西 宗 興
総 務 委 員 長	對 馬 央 也
会 員 委 員 長	對 馬 幸 征
青 少 年 委 員 長	佐々木 篤 史
ま つ り 委 員 長	田 中 宏 明
地 域 委 員 長	平 山 稔 洋
ブロック大会特別室担当理事	菊 池 孝 一
事 務 局 長	島 村 豊 次
財 務 局 長	平 田 ユキ子
監 事	松 野 健
監 事	坂 本 興 平

公益社団法人 五所川原青年会議所 2016年度 組織図



